

第 63 回東北海区海洋調査技術連絡会閉会の挨拶

木下 秀樹・第二管区海上保安本部海洋情報部長

昨日から二日間にわたりまして、東北海区における海洋調査あるいは調査技術に関する研究発表、また、活発なご質疑、ご討論、お疲れ様でございました。

東北地方に所在し、この海域を主要な活動の場としている各調査機関が、一年に一回、一堂に会して情報交換を行う大変貴重な機会でございましたけれども、本年も実のある討議が行われたのではないかと考えております。

東日本大震災から2年9ヶ月が経過しようとしているところでございますけれども、今回の発表にもあったように、余効変動によります船舶運行にも影響を与えかねない沿岸部の地盤の隆起はいまだ収束の気配が見えず、引き続き監視が必要という状況がございます。また、福島第一原発から海洋に放出された放射性物質の影響はどうか、津波によって影響を受けた沿岸の生態系は今後どうなっていくのか、世間からの高い関心に応えていくためにも、東北海区の海況を把握する調査は、長期的な視点を持って継続していく必要があると考えます。

他方、今年4月に改定された海洋基本計画では、海洋資源の開発・利用の中で「海洋再生可能エネルギーの利用促進」ということが新たに大きな施策として盛り込まれています。東北地方では、福島で洋上風力発電のプロジェクトが開始されましたし、その他にも海洋再生可能エネルギー実証フィールドの設置に名乗りを上げようと準備している地域が多数あると聞いています。ますます海洋の調査と情報の充実が求められているところです。

今後も引き続き、ここにお集まりの機関それぞれの分野で持てる能力を存分に活用しながら海洋の調査研究を継続し、この連絡会等の場で海洋情報の交換、共有を進めまして、国民に向けて正確な情報を発信していくことが、東北復興への貢献になるのではないかと考えます。

来年度は仙台管区气象台が当番官庁ということが決まりまして、また、更に進んだ情報交換が行えることを期待したいと思います。

以上、閉会の挨拶とさせていただきます。

会議の円滑な運営へのご協力ありがとうございました。